

2022年1月5日 Vol.188

### 大発会は明るいようだが

皆様、明けましておめでとうございます。今年も本コラムのご愛読宜しくお願い申し上げます。

令和4年の大発会は明るいムードで始まりましたが、明るいのは限られた銘柄に偏り、昨年のIPO銘柄や新興市場銘柄など売り物がちとなり、日経平均やTOPIXが高い反面でマザーズ指数は下落し2日目の本日にもそうした潮流が見られます。昨年末のIPOラッシュから1月はIPO銘柄がなく、個人投資家を中心に投資家の関心が薄れてしまったようです。とは言え、2022年は始まったばかり。2月3日からは今年のIPO銘柄の取引が始まりますので、今月半ば以降からまたIPO銘柄への関心が高まるものと見られます。

年間125もの銘柄がIPOを果たした2021年ですが、今年も既に3銘柄のIPOが発表されており、昨年同様に100を超える企業がIPOしてくると見られます。多くの投資家の皆様が東京IPOサイトのスケジュール一覧を見ながら公募申し込みや初値投資などされているのかも知れませんが、筆者も同様に銘柄分析の際に活用しており、皆様におかれましても引き続き宜しくご活用賜りましたら幸いです。

今年、最初に登場するのは2月3日のRecovery International(9214・M)。同社は2013年に病院職員だった現社長の大河原氏(現在39歳)が設立。在宅療養生活を支える看護師等による訪問看護サービス事業を展開しており、前12月期の売上高7.6億円に対し経常利益は0.2億円から今期第3四半期までで売上8.1億円、経常利益0.9億円と成長が見られる。公開株数は54.75万株のうち公募株数は7万株、売出株数は47.75万株と少ないため需給面は比較的良好。

2月4日には美容関連広告求人サービス等を手掛けるセイファート(9213・JQ)及びクラウド・AI・RPA・デジタルマーケティングなどの最新技術を活用したITコンサルティング・システム開発によるDX推進支援会社のビッグツリーテクノロジー&コンサルティング(4266・M)がIPOを果たす予定。1991年設立のセイファートの前12月期売上高は22億円、経常利益1.36億円で今期は3Qまでの売上17億円、経常利益は1.89億円と堅調な業績を上げている。公開株数は74.56万株、うち公募株数は42万株、売出株数は32.4万株となっている。フルキャストが株主に名前を連ねており、その関係が伺える。今回の3銘柄の中で最も時価総額が大きくなりそうなのはビッグツリーテクノロジー社でアクセンチュア出身の杉山社長に率いられたDXコンサル会社として既に前12月期売上高64.5億円、経常利益8.56億円の規模となっており、今期も第3四半期までの売上高54.6億円、経常利益10.8億円の規模にまで拡大。公開株数371.6万株、うち公募6万株、売出株数365.6万株でVC保有株の売出を主眼にしたIPOと言えるが、バイカレントなどの類似企業並みの高い評価がなされる可能性もありそうで注目される。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)